平成２１年４月１０日

各　位

日本道徳教育方法学会第１５回研究発表大会のご案内

拝啓　会員各位におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、私たちの日本道徳教育方法学会では、第１５回研究発表大会を、平成２１年６月１３日（土）・１４日（日）の２日間にわたり、以下の要領で開催することになりました。

今回も、最先端の研究が発表される予定です。ご質問の時間も十分にあります。積極的にご参加いただき、日本の道徳教育の発展にご貢献下さいますよう、ご案内申し上げます。

（学会事務局）

大会会場（大阪教育大学のホームページを参照して下さい。）

大阪教育大学柏原キャンパス（〒５８２－８５８２　柏原市旭が丘４－６９８－１）

電話　（０７２）９７８－３４７８（ダイヤルイン　事務局）

参加申し込みの方法

日本道徳教育方法学会第１５回研究発表大会に参加を希望される方は、別紙の要領で、５月２９日（金）（必着）までに事務局までお申し込み下さい。

大会参加費　２０００円┐・当日、受付にて徴収します。
　　│・会員の方は「大会参加費」は無料です。
懇親会費　４０００円┘・懇親会は会員、非会員を問わず参加できます。
（希望者のみ）

・１４日（日）の昼食は、希望の方は参加申し込み用紙で、お弁当（お茶付１０００円）を申し込んで下さい。（近隣には食堂等はありません。大学の食堂の営業はあります。）

・宿泊については、各自でご手配をお願いします。（大阪・梅田方面、天王寺方面とも、大学から約１時間くらいです。）

第　１　日

平成２１年６月１３日（土）　１３時３０分から受付開始

会員控室　共通講義棟　Ａ－２０７教室

理事会　１１時００分－１４時００分（共通講義棟　Ａ２０８教室）

自由課題研究発表（発表２５分・質疑３０分）

分科会Ⅰ（共通講義棟　Ａ２１５教室）
司会者　白木みどり（上越教育大学）・小寺正一（兵庫教育大学）

①・１４時００分－１４時５５分
「シティズンシップ教育・キャリア教育・環境教育
DVD 教材/指導書の開発（２）－教材の意義と授業モデル－」
発表者　中尾　豊喜（大阪市立十三中学校）・渡邊　満（兵庫教育大学）・松吉　徹也・角野　綾子

②１５時００分－１５時５５分
「価値達磨構想論による複数価値多時間追求型道徳授業の創造
～複数価値からの学びを通して子ども自身が構築する道徳的価値観～」
発表者　田沼 茂紀（國學院大学）・植田 清宏（京都市立神川小学校）・鎌田 賢二（京都市立七条第三小学校）

③１６時００分－１６時５５分
「異学年合同・地域素材でおこなう命の道徳授業」
発表者　上薗恒太郎（長崎大学）・森永　謙二（浮羽町立姫治小学校）・延岡理恵子・里村ひとみ・寺嶋　勲

懇親会　１７時２０分－１９時２０分（大阪教育大学生協レストラン）

第　　２　　日

平成２１年６月１４日(日)　９時００分から受付開始

自由課題研究発表（発表２５分・質疑３０分）

分科会Ⅱ（共通講義棟　Ａ２１５教室）

司会者　　服部敬一（大阪市教育委員会）・渡邉　満（兵庫教育大学）

①　９時３０分－１０時２５分

「共同的な合意形成過程をたどるための一方策に関する研究

－ジレンマ資料「ぽん太とりんりん」のより合理的な教材解釈を通して－」

発表者　　淀澤勝治（兵庫教育大学）

②１０時３０分－１１時２５分

「「道徳的価値の自覚」と「自己の生き方についての考え」を深める道徳の授業の工夫

－ねらいにかかわるキーワードづくりを通して－」

発表者　　柴田　八重子（知多郡美浜町立野間小学校）

分科会Ⅲ（共通講義棟　Ａ２０８教室）

司会者　　西　享子（大阪市立岸里小学校）・林　泰成（上越教育大学）

①・９時３０分－１０時２５分

「死生観を問い直す道徳教育の試み」

発表者　　佐藤　光友（大阪明星中・高等学校）

②１０時３０分－１１時２５分

「中学生の心に響く道徳授業」

発表者　　赤坂　雅裕（文教大学）

会員総会　１１時３５分－１２時３５分（共通講義棟　Ａ－２１５教室）

評議員会　１２時４０分－１３時３０分（共通講義棟　Ａ－２０８教室）

シンポジウム（１３時３５分－１６時００分）（共通講義棟　Ａ－２１５教室）

シンポジウム

「道徳授業の改善に結びつく評価の在り方」

本学会の第１回研究発表大会では、「道徳授業の評価はどこまで可能か？」というテーマでシンポジウム（パネルディスカッション）を行った。『道徳教育方法研究』創刊号には、4 名の発表者による当日の報告に基づく論文、報告を受けて行われたディスカッションの記録、コーディネーターの意見と提案が、それぞれ詳細に掲げられている。

これらの記録は、10 年以上の時間を経た現時点においても、道徳授業の根本問題を考える上で極めて重要な視座を提供している。それは、「道徳授業に進歩をもたらすには評価を客観的に行うことが必要である」という指摘はもちろんであるが、「評価」という問題を介して、「道徳の時間の目標をどのように考えるか」また「児童生徒の人格的全体像をどうとらえるか」、「道徳の時間の独自性と他の教科等における学習との共通性は何か」、といった本質論に私たちを導くからであると思われる。事実、その後の何回かのシンポジウムのキーワードは、すでにこのときの記録の中に見いだされるのであり、本学会の目指す「道徳教育方法研究」の方向を示すことになったとも言える。

さて、今回の学習指導要領改訂では、わが国において 50 年間継続してきた道徳教育の枠組みは基本的に維持しつつ、社会と子どもの変化に対応して指導の効果を高めるための改善を図ることになった。その中で道徳教育の「要」と位置づけられる道徳授業については、その充実のために配慮すべき観点として、（１）道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実、（２）体験活動を生かすなどの指導の充実、（３）児童生徒が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用、（４）自分の考えを基に書いたり話し合ったり（討論したり）して考えを深める工夫、等を示している。学校は道徳の時間の指導を「道徳の時間の特質を生かした道徳教育」として実施し、今日の社会の要請を受けて「児童生徒の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導」を重ねながら、その目標の達成を目指している。しかもその営みは教師個人の努力にとどまらず、学校としての研究体制の下で共有化された授業改善のサイクルとして行われることの重要性が認識されてきている。

このような事情の下で、道徳授業の改善に資するため、そして道徳授業を児童生徒と教師の双方にとって魅力的なものとするために、あらためてどのような評価が有効なのかを探ることには大きな意味がある。

その際、第 1 回研究発表大会シンポジウムのフロアから、具体的な授業の事例に基づいて主張することが必要ではないかという意見が複数出されていたことも考慮すべきである。「道徳授業の評価」と「道徳性の評価」の違いと関連、評価の観点や変容を観察する時間的な幅など、具体的な事例に即した検討の中で初めて共有されることも多いと考えられるからである。

そこで、今回は、発表者に具体的な事例を提示していただき、これにもとづきながら「道徳授業の改善に結びつく評価の在り方」について議論を深めてゆきたい

シンポジスト　加藤　英樹（名古屋市立有松小学校）　田沼　茂紀（國學院大學）
淀澤　勝治（兵庫教育大学）　渡邉　真魚（福島県田村郡小野町立浮金中学校）
コーディネーター　堺　正之（福岡教育大学）　上地　完治（琉球大学）

下記の事務局まで、５月２９日（金）必着で申し込んでください。

・申し込みは、郵便・FAX で受け付けます。

・必要な情報が記されていれば、メールでの申し込みも受け付けます。

第１５回大会　参加申込書	
ふりがな 氏　名	
ふりがな 住　所	住所〒 TEL・ＦＡＸ Ｅメール
ふりがな 所　属	ふりがな 所属名 ふりがな 所属住所　〒 TEL・ＦＡＸ・Ｅメール

希望される項目に○をつけて下さい

第１日目（６月１３日）参加　・　懇親会に参加を希望（４０００円）

第２日目（６月１４日）参加　・　１４日（日）の弁当を申し込む

事務局（１昨年より、FAX 番号、メールアドレスが変更になっています。）

〒５８２－８５８２　柏原市旭ヶ丘４－６９８－１

大阪教育大学 C6-109 内

日本道徳教育方法学会

FAX　０７２－９７８－３４７８

E-mail　kanemitu@cc.osaka-kyoiku.ac.jp